

講義名	経営情報分析			授業形態	
担当教員	木村 敬夫	開講期・曜日・時間	後期 金曜日 2 時限		
		単位数	2	履修開始年次	3 年生
				ナンバリング・コード	

主題と概要

経営情報分析が取扱い資料・データ領域は、計量情報と非計量情報（質）情報がある。企業（株式会社）の「計量情報」（損益情報と物量情報）、設備・金融資産投資、資本調達計画等、利益計画、比較損益・見積（予測）損益計算（書）、売上高と企業利益（報告利益）の関係、変動費と固定費（損益分析）等の情報（仮設情報）、業績指標としてのROE、ROA、株価、CAPM、等、企業評価、企業価値、推測する。具体的には、確率性下の資本支出分析（NPV・IRR等）、不確定性下（標準分布）、金融資産投資分析（共分散）、資本調達（有利子負債・増子、返済計画・繰上返済：利子率）、販売予測（趨勢分析・移動平均、回帰分析）、生産計画（目的関数・線形計画）、費用分析（変動費・固定費・最小自乗法）、予測（見積）財務諸表、企業財務分析（財務情報分析・破綻分析・判別関数）、企業評価（資本コスト・企業評価モデル）の検証。
また、質情報（貨幣・債権情報に転換が難しい）も経営情報に該当する。例えば、経営者の能力・知見、アンケート情報（色の好み）などである。これらの情報を取り扱うには、一つの方法として質を量に転換することが求められる。判別、集計分類方法などを工夫して、有意な情報に転換する。

到達目標

一定の条件のもとで、課題に対して、経営事象の最適解に履修者が到達することを目標とする。

提出課題

課題提出（毎回）2022年（イントロダクションを除いた）14回（15回講義中）提出している。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

解説等は教室内でプリント配布、追加の講義資料としても配布する。

評価の基準

課題提出（100%）で評価する。出席と課題提出は毎回とする〔但し、連続して出席しない場合、作業・操作方法が理解できない〕。
2022年開講 2単位：経営情報分析
講義回数（イントロダクションを除く） 14回（2/3）〔イントロ以外、11回以上の提出が単位条件となる。〕

履修にあたっての注意・助言他

本講義は「演習形式」（自身が与えられた課題を自分で処理して課題を提出する）であり、（株式）会社の事業遂行上に生じる経営情報の処理方法を学ぶ。これには経済、経営、財務、会計（経営事象：数量化可能）、表計算・統計の知識が前提となっている。また、PC操作（表計算）による操作が連続することから、一度欠席すると、次の回の課題処理が困難になり、途中放棄してしまう。したがって、連続して出席することが必須である。これは提出課題数からも理解できる。
2022年後期
13名履修登録：単位取得10名（3名放棄等）：分布 A・4、A 6、B・0、C 0

教科書

.使用しない。

参考図書

その他

第1回目の講義に際して、配布する資料に参考図書一覧を示す。
（各講義別の演習課題・提出課題はポータルに示します）。履修者は講義に先立ち課題を自らの操作PCにダウンロードしておく。その課題解決方法〔操作方法〕は、プリントして講義室（PC室）で配布する。上記・参考書等を参照。価格も、処理水準も多岐にわたって出版されている。また、NetWorkで紹介もされている。これを参照する場合は、利用には細心の注意が求められる。

授業計画

- 第1講 情報、情報処理と統計分析〔イントロダクション〕
- 第2講 情報〔データ〕の集計・抽出、検定・関数、ピボット等〔分析資料を作成する〕
- 第3講 情報の相関関係・分析
- 第4講 相関・回帰分析と経費量予測
- 第5講 相関・回帰分析と経費量予測
- 第6講 相関・回帰分析と経費量予測
- 第7講 回帰分析と検定
- 第8講 回帰分析と検定 仮説検定：アンケート、アンケート集計方法とその統計分析
- 第9講 資本調達、返済計画と利子率計算
- 第10講 資本調達、返済計画と利子率計算
- 設備投資計画、現在価値、内部利益率
- 第11講 最適資産配分（線形計画） ソルバー
- 第12講 最適資産配分 ソルバー
- 第13講 財務情報と損益分岐推測
- 第14講 シナリオ登録と損益分岐情報・費用、価格、利益と売上高の関係分析
- 第15講 損益、販売価格、費用分解と費用削減の相互関係分析

授業形態（アクティブ・ラーニング）

<input type="radio"/> ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
<input type="radio"/> ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
<input type="radio"/> オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
<input type="radio"/> キ：その他（A・L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

講義は連続した内容となるために、前回処理した内容（配布プリント）の確認と講義予定内容との関係を参考書（統計、データ分析）などで確認する（前後3時間）。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

少なくとも、「大学の教育、大学卒業者」（大学の場で教育を受けた）に求められる情報処理（取得、処理、プレゼン・可視化）の一端を習得する。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

PC通信機能、また、口頭でも行う。

実務経験の有無及び活用

備考

講義はPC演習室で行います。このため、履修可能者はPC室のPC設置台数を越えて履修ができません。履修制限数を越えた場合、「抽選」になりますから、履修登録されているかどうか必ず確認して下さい。